

ディプロマ・ポリシー			カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>本学科では、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って127単位以上を修得し、教育目標に沿って次のような能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、学士（看護学）の学位を授与します。</p>			<p>本学科では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、次のような教育内容に基づき、以下の3つからカリキュラムを編成します。</p>	<p>本学科は、「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能・意欲を備えた女性を求めます。</p>
1. 知識・理解	1-1	看護の対象者の生活を理解するための幅広い教養や基礎知識を身につけている。	<p>1. 「共通教育科目」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の生活や生命、それを取り巻く社会や文化・環境といった幅広い教養を学び視野を広げる科目 ・看護を行う上で必要不可欠な科学的な思考、論理的な思考力、コミュニケーション能力を身につける科目 ・女性として社会人としてキャリアを積み上げていくために必要な基本的態度を身につける科目 	<p>知識</p> <p>1. 看護を学ぶ上で必要な基礎学力を身につけた人</p>
	1-2	生活者としての看護の対象者を支援するために必要な専門的知識を習得している。		
2. 技能・表現	2-1	看護の対象者の価値観を尊重したコミュニケーション能力を身につけている。	<p>2. 「基礎教育科目」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の身体を理解し、健康や病気、障害に関する観察力や判断力を養うとともに、看護を行うときの根拠や必要性を考慮することができる科目 ・人の健康や障害の状態に応じて活用できる保健医療福祉サービスを理解するための科目 ・看護を学ぶ基礎として、保健医療の関連情報の分析や国際的な視野で情報を得るための情報活用技術や英語力を身につけるための科目 	<p>技能</p> <p>1. 自分の考えを表現し、コミュニケーションを行う素地をもっている人</p> <p>2. 人の気持ちや考え方を尊重することができる人</p> <p>3. 人の生活や健康に興味があり、基礎的な分析的思考力を有し、物事を論理的に考えようとする人</p>
	2-2	援助に必要な看護技術を身につけている。		
3. 思考・判断	3-1	看護の対象者の生活や健康を支える様々な要因（身体心理社会的）についての情報を収集し、分析することができる。	<p>3. 「専門教育科目」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度先進医療から在宅医療に至るまでの治療の目的を理解する科目 ・生活者としての人を支えるために必要となる知識を学修する科目 ・人の価値観を尊重したコミュニケーション能力を学修する科目 ・生命の尊厳と人権尊重を基盤とした倫理観を養う科目 ・援助に必要な看護技術を学修する科目 ・必要な看護実践を計画し、多職種間連携を理解し、看護実践能力を育成する科目 <p>教育課程全般を通じて、講義・演習・実習といった授業形態により、看護学の知識・技術・態度の要素を統合的に養います。</p> <p>各専門科目それぞれで、対象者の人権尊重などの倫理的な視点および行政・施策に関する内容が含まれます。</p> <p>また、教育課程については、統合看護学実習と修了年次に提出する卒業論文、卒業論文の研究発表・討議をもって、教育課程を通じた学修成果の総括的評価を行います。</p> <p>こうした看護学の学習により、本学科が目指すところである援助の対象者を「生活者」と捉え、生活の質（QOL）と治癒の促進を考慮しながら科学的な根拠に基づいた看護を導くための基盤づくりを可能とします。</p> <p>なお、本学科では、所定の授業科目を修得することで、看護師の国家試験受験資格を得ることができます。</p>	<p>意欲</p> <p>1. 看護の実践家として社会に貢献する意欲がある人</p> <p>2. 自ら進んで学習を続ける意思・意欲がある人</p>
	3-2	援助が必要な人の状態を明確にして、援助の根拠を特定することができる。		
	3-3	生活および医療全般にわたって、看護の対象者に起こりうる事態を予測し、論理的思考力と的確な問題解決能力に基づいて、最善策を導き出すことができる。		
4. 態度・志向性	4-1	生命の尊厳と人権尊重を基盤とした倫理観を有している。		
	4-2	プロフェッショナルな看護師として社会に貢献する意欲を持っている。		
	4-3	看護師として、生涯にわたって自分を高めていこうとする強い意思・意欲を持っている。		
5. 看護実践力	5-1	他の医療職者や福祉関係の職種との連携を理解し、看護の対象者やその家族への援助ができる基礎的な看護実践力を身につけている。		